

平成29年度 第3回岡山県文化振興審議会 次第

日時：平成29年10月31日(火)

14時～15時30分

場所：ピュアリティまきび 飛翔

1 開 会

2 議 事

・おokayama文化振興ビジョン（2018～2027）（仮称）の「案」について

3 その他

4 閉 会

岡山県文化振興審議会委員

任期：H28.2.1～H30.1.31

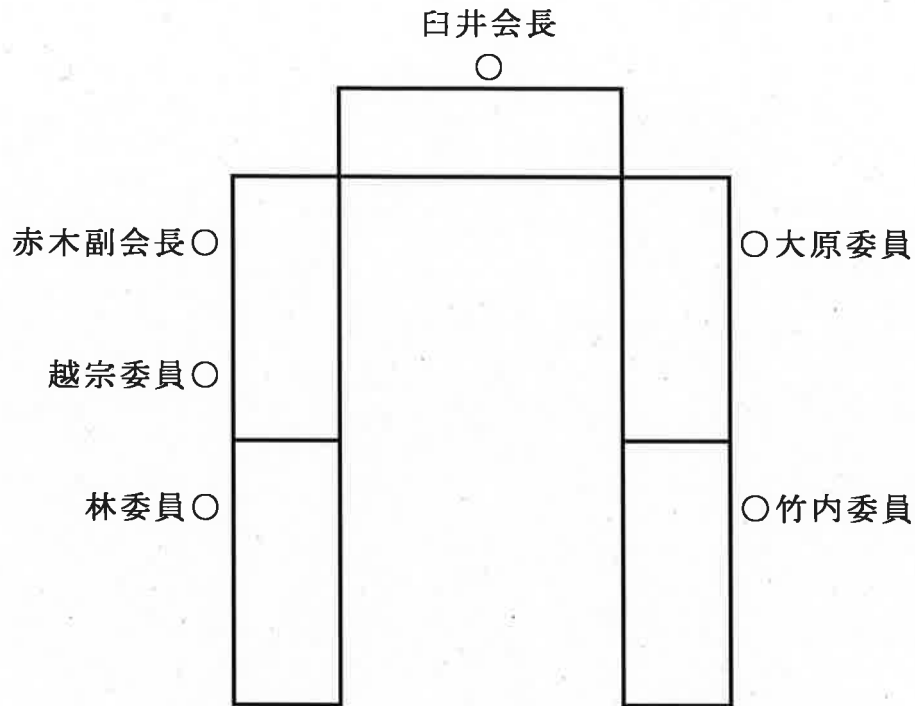
氏名	役職名
赤木 里香子	岡山大学大学院教育学研究科教授
臼井 洋輔	備前市立備前焼ミュージアム館長
大原 謙一郎	公益財団法人大原美術館名誉理事長
神崎 宣武	民俗学者
越宗 孝昌	山陽新聞社取締役会長
竹内 京子	くらしき作陽大学教授音楽学部長
田野 智子	NPO法人ハートアートリンク代表理事
林 陽舟	岡山県書道連盟会長
原田 マハ	小説家

敬称略 50音順

平成29年度 第3回岡山県文化振興審議会 配席図

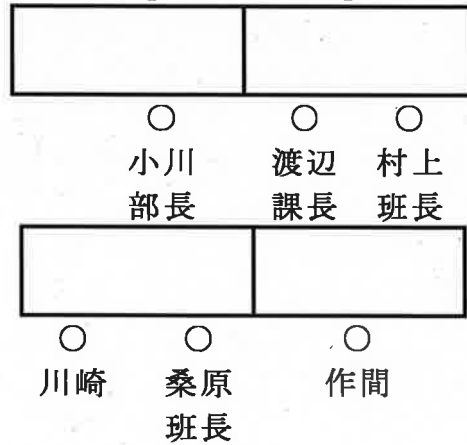
日時：平成29年10月31日（火）14:00～15:30

場所：ピュアリティまきび 3階 飛翔



報道席

【事務局】



傍聴席

傍聴席

入口

第2回文化振興審議会 発言内容等

	審議会意見	対応(案)
総論	文化伝承のかたち	
	すでに絶滅危機に陥っている文化伝承のかたちがあって、そこへどうみんなが協力するか、協力して良いのか悪いのか、自然消滅するのに任せばいいのか、どう取り組むかということは難しいが、大きな問題として意識しなければいけない。	P16「伝統文化の保存・継承・発展」について記述しています。
	文化に興味をもつ風土づくり	
	文化、歴史に対してもっと尊重し、興味を持つ、そういう文化的歴史的風土をつくっていくということは県の重要な目標ではないか。活動するのは民間かも知れないけど、そういう風土づくりみたいなことを新しい文章の中に入れて頂けるのかどうか。	P6・P7(1)の「県の役割」に記述します。
	郷土への愛着心	
	愛着心と誇りを持てる岡山にするのは非常に大事なことだ。	P8基本目標に記述します。
	市町村ホームページに文化を書き込む	
	各市町村のホームページの中に、地元の文化マップとか、歴史をキッチリ書き込むということは、特にやって頂きたい	市町村会議等で伝えていきます。
	若者への手紙	
	文化基本条例附属の「若者への手紙」は、若者以上に先生方にぜひ読んでもらいたい。	今回のビジョンにも掲載のうえ広報を行う予定です。
若手芸術家支援		
岡山県にI氏賞があるのだから、I氏賞を受けた人達が発表する場、挑戦する機会の提供など、若手の芸術家の支援というのをI氏賞をベースにやっていると、岡山県への芸術家の関わりが変わるのではないかと。文化の継承も大事だが、創造クリエイションに挑戦する人への支援をどの部分が担うかというのもあるが、トライアンドエラーでまずはやってみてもらうというのが非常に大事だ。	P14に記述のとおり、支援は既に実施しています。 I氏賞では受賞者の作品展の開催、受賞者が作品展を行う際の助成を行うなど若手芸術家の支援を実施しています。 また、今年度はI氏賞10周年の記念行事を開催することとしています。	
県の役割	(7ページに)「県民が文化に親しむ環境づくり」とあるが、確かに「環境づくり」もあるけれど、歴史とか郷土の歴史文化に親しみをもつような、県民の意識改革というのも一つどこかに入れていただければと思う。	P7の「県の役割」(1)に記述します。
基本目標	基本目標はいつ頃見せてもらえるのか。一時流行った文化立県とか、文化県づくりとか、文化県「おかやま」とかそういう言葉ではなくて別なやわらかい言葉を考えているのか。予め見せてもらえるのであれば、我々も十分に考えていきたいと思う。ここは大事なことなので期待している。	事前にお示しし、意見を伺うこととしました。
基本方針	「文化発信をしながら愛着心と誇りを持てる岡山」は、この中の施策の方向性、重点施策によって十分裏付けられているかどうか疑問だ。むしろ、「郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実」、「伝統芸能・伝統工芸などの保存・継承・発展」、「郷土の誇る先人顕彰の推進」などが、愛着心と誇りを持てる岡山の中の施策となるべきではないのか。この辺りを整理して、重点施策の組み換えが若干必要ではないか。	P11基本方針の修正を行います。 「文化発信をしながら愛着心と誇りを持てる岡山」を「文化発信をしながら交流を広げる岡山」とします。 「愛着心と誇り」については、ビジョンの全体に通じる記述なので、P8基本目標に明記します。
	施策の方向性や重点施策をこのままでいくとすれば、「文化発信をしながら交流を広げる岡山」と表現した方が施策にはふさわしいと思う。	

審議会意見		対応(案)
将来の地域文化の担い手育成	世代を超えて伝えられるような教養的な文化が根付いたらいいと思うので、文章の順番で、教育を1番上に掲げてよいのかどうか。	P12の3番目の「郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実」を1番目に記述します。
	3番目が1番上でもいいかもしれない。「郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実」が一般論としてあって、学校教育や教員や子供という風に繋がった方がよいかもしれない。	
	郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実	
	「郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実」の記述は、もう少し具体化し、平板なものではないようにしたほうがよい。ガイドブックだけではなく、文化財、或いは文化活動に関するアーカイブスというような言葉を入れることが必要だ。映像にしる出版にしる、それがいかにファイリングされるかで、その文化度が図られる。ガイドブックに限定するから旧態依然ととられる。若い人達は我々が考える以上にネット情報で動いているので、今の時代、ガイドブック、アーカイブス或いはネットマップとか、そういう言葉をここに掲げてはどうか。	P12修文を行います。
施策の方向性	「岡山ゆかりの人物や文化財をわかりやすく紹介するガイドブックの作成及び普及」については、過去10年間でかなりできていると思うので、もう少し具体的なこと、さらに踏み込んだ文言とか、ビジョンがあっても良いのではないか。	
	岡山県文化連盟の機能強化	
	「おかやま文化芸術アソシエイツ」について、こういった組織が具体的に何をしているかが県民によくわかって、文化団体以外の例えば伝統芸能を保存しようとするような人達でもサポートを受けられるような、そういった機能が持ち得るものなのかどうか。	伝統芸能を保存しようとしている人達もサポートは受けられます。P7の※2の注釈において、修文を行います。
県民参加による新たな文化の創造	10年間のスパンのビジョンなので、アソシエイツは3年経ったら終わりましたということではなく、国の補助が無くなっても何かの形でこういった組織、機能が継続できる体制こそが本当の体制づくりだと思うので、国の補助に頼らずにどうやっていくのかを、体制づくりとして考えてほしい。	ご意見を踏まえ、アソシエイツの運営に取り組んでいきます。
障害のある人の文化活動の推進	障害者アート等文化活動の推進	
	障害の害の字は、別の漢字を使うか、ひらがなにすることを検討してほしい。	P15「碍」は常用漢字ではないため使用しないこととしています。法律も「障害者」で定義づけされており、岡山県の作成する文書では一律に「障害」を使用していますので、ビジョンにおいても、同様の記述にしたいと考えています。
	障害者アートという文言が使われているが、非常に懸念がある。アートこそ色々な障害にかかわっていく手段であると確信して活動してきたが、障害者アートというものに焦点を当てることが逆にその言葉が枷にならないか懸念している。	P15修文を行います。
	ダイバーシティの概念で、表層に表れる格差の中に年齢とか性別とか障害とかあるが、多様性の中に文化や芸術がどうフラットに関わっていくかという研究が進んでいるので、オリンピック・パラリンピックを契機として障害者アートを考えるのであれば、もう少し広げることも考えられる。	

審議会意見		対応(案)
施策の方向性	民俗文化の保存・継承・発展	
	民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用	
	保存という言葉が入ったということは、そういうことに対して行政が口を出さずに支援をするということまで一步踏み込んでほしい。民間を大事にしながら民族芸能、伝統工芸など、或いは吉備の国文化遺産などの保存をしていくという姿勢が出てくればよい。	P16に記載のとおり、民俗芸能大会の開催等を通じて発表機会の促進や後継者の育成に取り組んでいます。
	5年後が危ぶまれる自治体がある中、10年後に祭りとか継承文化がどうなるだろうという不安がある。そういった意味で継承・発展、人材育成などに、もうちょっと踏み込んでほしいと思う。	
	郷土の誇る先人顕彰の推進	
	「郷土の誇る先人顕彰」の人物像には、雪舟や浦上玉堂などに焦点を合わせてもらいたい。	P16修文を行います。
	ユネスコ無形文化遺産登録	
「ユネスコ無形文化遺産登録」は、例えば「先人顕彰の推進」などに書きぶりを合わせて、遺産登録への支援、遺産登録との連携などに書きぶりを変えた方がよい。	P16修文を行います。	
岡山からの文化発信		
おかやま独自の文化発信		
「おかやま独自の文化発信」の項目ができたことは良いことで、ここに本県出身者の郷土愛を高めますという一文が入ったことに意味がある。郷土愛を維持している本県出身者を文化サポーターの中へ積極的に取り入れるというような一文が追加されたらさらによい。	P21修文を行います	

おこやま文化振興ビジョソ
(2018～2027)

(案)

[目 次]

I	ビジョン策定にあたって	3
1	これまでの経緯と策定の趣旨	
2	位置づけ	
3	対象範囲	
4	期 間	
II	文化振興の基本的視点	5
1	文化振興の基本的視点	
	(1) 自由な発想と主体的な文化活動の尊重	
	(2) 文化を創造し、享受することができる環境の整備	
	(3) 芸術家等の育成	
	(4) 県民の協働による文化の振興	
	(5) 将来の世代への文化の継承	
2	県の役割	
III	基本目標	8
	「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」	
IV	基本方針	9
1	文化を創造し心豊かに生活できる岡山	
2	文化が地域の元気を生み出す岡山	
3	文化発信しながら交流を広げる愛着心と誇りを持てる岡山	
V	具体的施策	11
1	文化を創造し心豊かに生活できる岡山	
	(1) 将来の地域文化の担い手育成	
	(2) 県民参加による新たな文化の創造	
	(3) 県民の文化創造活動の振興	
	(4) 障害のある人の文化活動の推進	

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

- (1) 伝統文化の保存・継承・発展
- (2) 文化の力を活用した地域の活性化
- (3) 地域資源としての文化の積極的な活用

3 文化発信しながら交流を広げる愛着心と誇りを持つ岡山

- (1) 多様な文化プログラムの展開
- (2) 文化での連携・交流の促進
- (3) 岡山からの文化発信

VI 文化振興のための体制づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

- 1 文化行政推進体制の充実
- 2 政策形成への民意の反映等

VII 文化振興ビジョンにおける成果指標・・・・・・・・・・・・・・・・ 〇〇

[参考資料]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 〇〇

- 1) おかやま文化振興ビジョン体系図
- 2) 岡山県文化振興基本条例
- 3) おかやま文化振興ビジョン策定及び改訂の経緯
- 4) 岡山県文化振興審議会委員名簿

I ビジョン策定にあたって

1 これまでの経緯と策定の趣旨

岡山県では、平成 12（2000）年 3 月に 21 世紀を展望した「岡山県文化振興ビジョン」を策定し、平成 18（2006）年 3 月には、県民の主体的な文化活動を尊重し、多様な主体との協働により、心豊かに生きることができる地域社会の実現を目指した「岡山県文化振興基本条例」を制定しました。そして、この条例制定を契機として、「おかやま文化振興ビジョン」を平成 20（2008）年 2 月に新たに策定し、各種施策に取り組んできました。

また、県では、平成 16（2004）年の「県立図書館」、平成 17（2005）年の「天神山文化プラザ」、「ルネスホール」などの開館や「岡山県文化連盟」の創設などハード・ソフトの両面から施策を実施し、着実に成果を上げてきました。

さらに、平成 22（2010）年秋に開催した「第 25 回国民文化祭・おかやま 2010」（愛称：「あつ晴れ！おかやま国文祭」。~~以下、愛称で表記する。~~）では、これまで蓄積された岡山の文化を活かし、新しい文化の創造や発展に取り組むとともに、全国へ向けて岡山の文化を発信する大きな機会となりました。

平成 29（2017）年度からの 4 5 年間の県政推進の羅針盤である「新晴れの国おかやま生き生きプラン」では、生活の質を重視し、心の豊かさを求める県民ニーズの高まりを受けて、重点戦略として「安心して豊かさが実感できる地域の創造」を掲げ、その中で、文化の振興を通じて、豊かで潤いのある暮らしや活力のある地域の創造を目指すとともに、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京オリンピック・パラリンピック」で表記する。）に向け、県下で文化プログラムを積極的に展開していくこととしています。

今回、こうした社会経済情勢の変化等を踏まえながら、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、本県文化の一層の振興を図る施策を効果的に展開し、東京オリンピック・パラリンピック後の文化のレガシーとして継承・発展させていくためにこのビジョンを策定するものです。

2 位置づけ

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第 7 条に定める「文化の振興に関する基本的な計画」としての役割を担うもので、長期的視点に立った今後の本県文化行政の施策の方向性を示すものです。

3 対象範囲

「文化」は様々に捉えられていますが、本ビジョンでは、岡山県文化振興基本条例に基づき、概ね次に掲げる芸術、生活文化、伝統文化などの各分野を対象としています。さらに、文化の持つ力を活用した地域づくり・国際交流・産業振興・福祉・景観などの分野における取組も含めて検討しています。

(対象とする分野)

- ◇芸術（文学・音楽・美術・書道・写真・演劇・舞踊・工芸・デザインなど）、メディア芸術（映画・漫画・アニメーション・コンピュータなどを利用した芸術など）
- ◇生活文化（茶道・華道・囲碁・将棋・民芸・郷土料理・ファッションなど）、文字・活字文化
- ◇伝統文化（地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・伝統工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言など）

4 期間

平成 30（2018）年度から平成 39（2027）年度までの 10 年間とします。

なお、5 年程度で中間見直しを行うこととします。

Ⅱ 文化振興の基本的視点

1 文化振興の基本的視点

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第3条に掲げた5つの基本理念を基本的な視点として策定します。

(1) 自由な発想と主体的な文化活動の尊重

文化の創造は芸術家のみならず、すべての人の創造活動により実現するものです。こうした人間の自由な精神に基づいた多様な創造活動は、個人の生活の質を高め、その個性や創造性を引き出す原動力になります。

こうしたことから、県民一人ひとりの自由な発想と主体的な文化活動が尊重され、すべての人が自由な発想を持って活動することにより、文化が活性化され、より豊かで特色ある創造的な地域文化が生まれるという視点を幅広く共有することが重要です。

(2) 文化を創造し、享受することができる環境の整備

文化を創造し、享受することは人々の生まれながらの権利です。県内どこに住んでいようと、誰もが等しく文化を創造し、享受することができる環境を整えていかななくてはなりません。

これまで、県内各地で公立文化施設等の整備が進められ、施設面では充実してきましたが、文化を享受する機会についてはまだ地域的に大きな開きがあります。

こうしたことから、文化に関する情報提供や各地域における文化を育む環境の整備を通じて、広く県民が様々な形の文化に触れ、文化の創造活動に参加できるとともに、創造性や個性を発揮しやすい環境をつくることが重要です。

(3) 芸術家等の育成

多様で優れた文化を創造し、継承し、発展させていくためには、文化に関する創造活動に携わる芸術家をはじめ、文化施設や文化団体で企画・研究等を行う学芸員やアート・マネジメント^{※1}担当者、文化財等の保存技術保持者や研究者、伝統芸能の伝承者などの活動と相互の連携が欠かせません。

※1 アート・マネジメント：文化施設の運営や文化団体の活動、あるいは、文化関係の催しに対し効果的で大きな成果をあげるための活動の総称。具体的には、企画制作、管理関係業務、広報活動、持続的に活動するための組織経営などが含まれます。

こうしたことから、これらの人々が活動成果を発表する機会の確保に加えて、文化に関する幅広い人材の育成・活用や資質向上のための研修等の充実を図ることが重要です。

(4) 県民の協働による文化の振興

文化は、地域の魅力を創造し、豊かな地域づくりの礎になるとともに、人々に精神的な豊かさや感動を与え、生きる力と喜びをもたらすなど、様々な面で私たちの生活を支えているものです。

文化の持つこのような力を人づくりや地域づくり、さらには地域産業の活性化に活かしていくことが必要です。

また、文化活動を行うNPO等の増加、大学と地域の連携、文化活動を支援する企業のメセナ活動など、行政以外の分野でも様々な取組が広がりつつあります。

こうしたことから、県民・文化団体・NPO・企業・大学など、様々な主体と行政が、目標を共有しながら、その目標に向かって、ともに力を合わせて活動する文化の振興を進めていくことが重要です。

(5) 将来の世代への文化の継承

地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・伝統工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言などの伝統文化は、人々の暮らしや生き方を支える基盤であるとともに、全国・世界に誇りうる貴重な財産です。また、これらの伝統文化は県民の誇りと心のよりどころであり、県民の活力を高め、新しい価値を創造する源であるとともに、将来の地域発展の基礎となるものです。

こうしたことからこのように、県内各地の個性ある伝統文化や埋もれた文化資源を掘り起こし、県民共有の財産として尊重し、将来の世代に伝えていくことが重要です。

2 県の役割

県の役割は、地域における文化振興の総合的なコーディネーターとして、芸術家等の育成支援や、県民や民間団体等の主体的な文化活動が活発に行われるような環境づくりを図るとともに、文化が育まれる風土づくりを醸成し、文化活動の成果がよりよい地域づくりに活かされるよう努めていくことです。

~~このことを踏まえ~~このため、岡山県文化連盟(公益社団法人岡山県文化連盟、以下同

じ。)に設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」※2の機能も活用しながら、次の役割に重点を置き、施策を推進していきます。

(1) 県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり

多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、文化活動に参加できる環境づくりや、県民が文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

(2) 東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とした文化の継承・発展

東京オリンピック・パラリンピックに向け、これまで蓄積されてきた岡山の伝統的文化を取り入れながら、世代や分野を超えた新しい文化が創造され発展するよう文化プログラムを展開するとともに、そのレガシーを東京オリンピック・パラリンピック後の充実した文化活動へと継承・発展させていく仕組みづくりに努めます。

(3) 未来を創り、拓いていく担い手育成

将来の岡山の文化を担う子どもや若者らが、様々な文化を体験できる機会を充実するとともに、若手芸術家の育成など、未来を創り、拓いていく担い手の育成に努めます。

(4) 「文化の力」の充実と活用

文化の持つ「人々を感動させ魅了する力」、「地域の魅力や価値を高める力」等に着目し、その力を高めて地域づくり・産業振興・福祉などに活かし、地域の活性化に努めます。

(5) 文化ネットワークの形成

文化の持つ力を高め、文化活動を活発化させるため、人・もの・地域・情報を結びつける仕組みづくりに努めます。

※2 おかやま文化芸術アソシエイツ：岡山県と岡山県文化連盟が、文化連盟内へ設置している組織であり、県内の文化団体等の活動支援やコーディネート、東京オリンピック・パラリンピックにおける文化プログラムの認証・及び参画促進のため、文化事業に関わるあらゆる相談窓口業務等を行うことを目的としている。

Ⅲ 基本目標

「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」

岡山県は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、古代吉備の国からの長い歴史を通じて、人・もの・情報が活発に行き交う水陸の交通の要衝として栄えてきました。

そうした中で、先人が育み守り伝えてきた独自の文化と、時代ごとに新たに創造された文化とが交流し、融合する中で、岡山の文化を形成してきました。

今また、県民の自主的な文化活動や幅広い交流を図ることで、新しい文化が生まれようとしています。

東京オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典のみならず、文化の祭典でもあることから、大会の開催に向け、引き続き、県民が多様な創造活動に自ら参加し、豊かで潤いのある暮らしや活力のある地域の創造を目指していくことが大切です。

そして、東京オリンピック・パラリンピック開催後も、岡山の文化の再認識と継承・発展、次世代育成と新たな文化の創造、岡山の文化の情報発信と様々な交流といったレガシーを生み出していくことが必要です。

県民一人ひとりが岡山の文化に愛着心と誇りを持ち、県民の協働によって岡山の文化を継承・創造・発信しながら発展させていき、その豊かで特色ある岡山の文化が人々の心の豊かさや活力を一層向上させ、その結果、県民の自由な発想と活発な文化活動によって、岡山の文化の質がさらに高まっていくという好循環が生み出されていくことを目指します。

IV 基本方針

1 文化を創造し心豊かに生活できる岡山

県民一人ひとりが文化を創造し、楽しみ、感動する機会を平等に得られることが大切です。そのためには、あらゆる県民が居住地に関わらず、創作活動に参加したり、観賞体験できる機会を充実させることが必要です。

また、若手芸術家への支援や文化サポーター^{※3}の育成など、文化を創造し、支える人材の育成を図る必要があります。

このため、多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、各地域で文化の伝承・創造活動に参加できる、~~文化を楽しみ、感動できる~~環境づくりや、文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

文化の持つ力は、県民の自信と活力を高め、新しい価値を創造する源であり、豊かな地域づくりに欠かすことができません。

また、地域固有の歴史と風土の中で育まれてきた伝統文化や、歴史的なまちなみ、都市の景観、自然環境等は、県民の誇りと心のよりどころであり県民共有の財産です。

文化の持つ力でこれらの地域の魅力や価値をさらに掘り起こし、地域の特色や魅力を生かした取組を展開することで、観光や地域産業の活性化など、豊かな地域づくりにも文化の力を活かしていきます。

3 文化発信しながら交流を広げる愛着心と誇りを持てる岡山

古くから交通の結節点となって栄えてきた岡山の歴史が語るように、人・もの・情報が活発に行き交う時代と地域にあってこそ多様な文化が融合し、向上し、新しい文化が育まれます。

また、地域固有の文化は、人々の心を結びつけ、相互理解と連携を深める上で重要な役割を果たすとともに、郷土への愛着心を育みます。

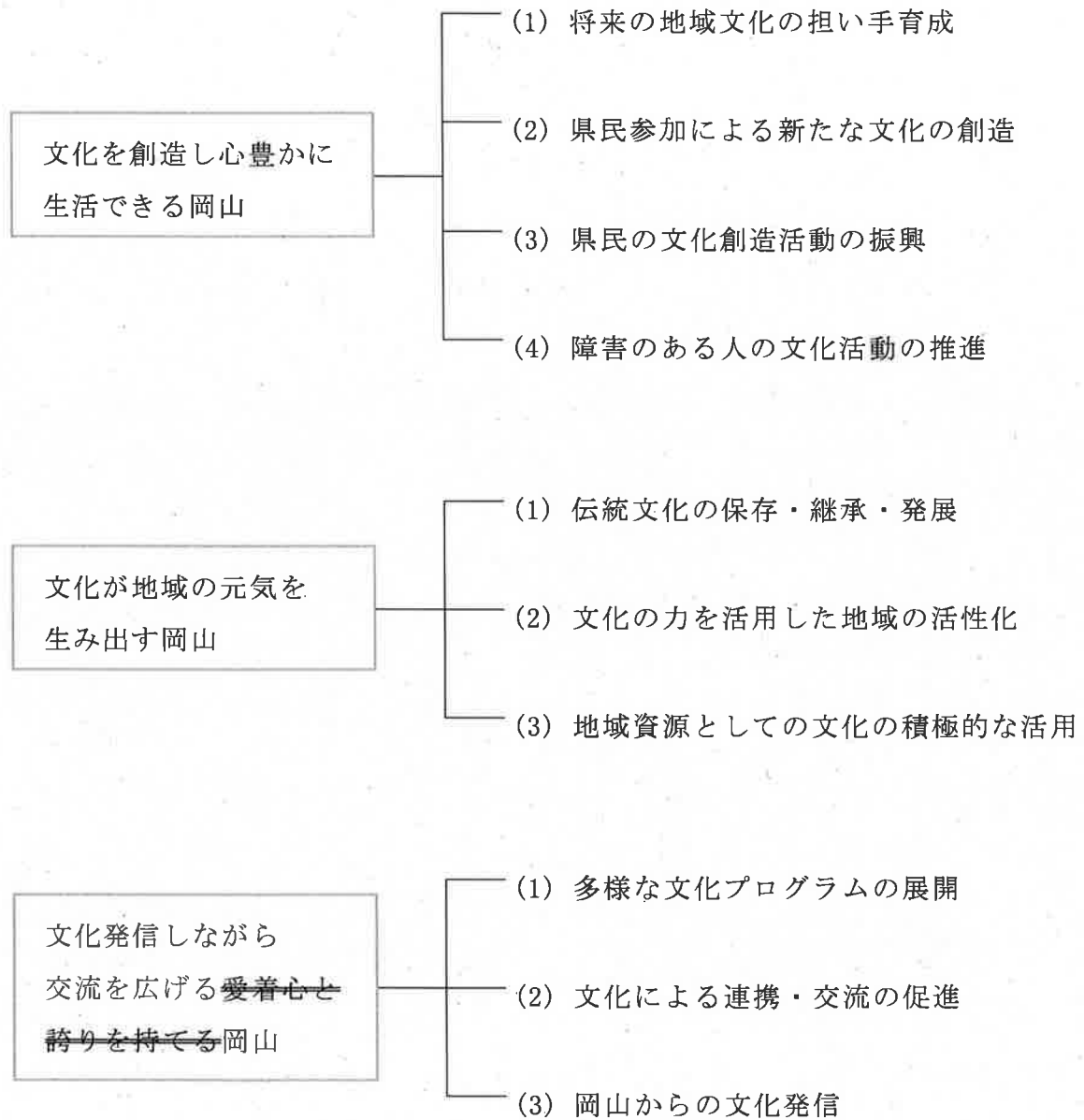
このようなことから、それぞれの分野で活動する文化団体等がお互いに幅広い交流を行い、連携を深められるよう努めるとともに、岡山の魅力を伝える文化の積極的な発信と多様な文化の受信に取り組みます。

※3 文化サポーター：文化活動に主体的に参画する人や、文化イベントの支援を行うボランティアなど、文化活動に関与する県民を広く総称するものです。文化サポーターを育成・支援し、相互のネットワークを構築する組織として、公益社団法人岡山県文化連盟内に「文化芸術アソシエイツ」が設置されています。

また、東京オリンピック・パラリンピックに向け、文化を通じた機運醸成を図るため、岡山の魅力あふれる文化を世界の人々に発信するとともに、創出した次世代に誇れる文化のレガシーを継承・発展させるよう努めていきます。

V 具体的施策

(施策体系)



1 文化を創造し心豊かに生活できる岡山

(1) 将来の地域文化の担い手育成

学校や地域において、子どもや若者が本物の文化に触れ、豊かな感性や創造性を育む機会を充実することにより、次世代の文化の担い手となる、心豊かな子どもや若者の育成を図ります。

(重点施策)

○郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実

岡山ゆかりの人物を~~や文化財を~~わかりやすく紹介するガイドブックや文化財めぐりに便利なマップ等の作成、文化財や文化財に関する情報の整理・充実など、~~の作成及び普及など~~、子どもや若者が、郷土の歴史、伝統工芸・伝統芸能、文化財に親しむ機会の充実を図ります。

○学校教育における文化活動の充実

「総合的な学習の時間」など様々な学習機会を活用して、芸術や伝統文化等に親しむ教育の充実や、児童生徒が発表する機会や優れた文化を鑑賞する機会の充実を図ります。

また、学校の各教科等の授業や文化部活動の活性化を図るため、音楽や美術等の指導を行う教員の資質向上を図るとともに、優れた地域の芸術家や文化活動の指導者などと教員が協力して、様々なプログラムを作成し指導ができる取組を促進し、学校における芸術教育や文化活動の充実を図ります。

○子どもや若者の文化活動の充実

子どもや若者を対象とした文化公演等への支援を行うとともに、民間団体等との連携などにより文化活動の場や機会の充実を図ります。また、学校等と連携し、県立美術館や県立博物館などの文化施設によるアウトリーチ活動^{※4}の充実を図るなど、子どもたちの文化に対する感性を育む取組を促進します。

○教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実

子どもたちに文化に関する指導を行う教員の資質の向上を図るため、県立博物

※4 アウトリーチ活動：アウトリーチの本来の意味は、手を伸ばすこと。日頃、文化に触れる機会が少ない人々への文化施設などが館外で行う普及活動をいいます。

館、県立美術館、古代吉備文化財センターなどの県立文化施設を活用した研修の充実を図ります。また、次代を担う学生等が多様な文化に触れる機会を増やし、心豊かで地域に誇りと愛着心を持つことにつながるような研修機会の充実を図ります。

○芸術系専門学科を有する高校や大学との連携

県立文化施設と県内の芸術系専門学科を有する高校や大学が部活動、職場実習、出前講座などによる連携を通じ、新たな文化活動の創出、ネットワークの構築を図ります。

(2) 県民参加による新たな文化の創造

県民による文化活動の充実を図るため、文化活動を担う人材及び民間団体等の育成及び活用に努めます。また、次世代を担う新進芸術家が活動成果を発表する機会の充実に努めます。

(重点施策)

○岡山県文化連盟の機能強化

文化団体やアーティストなどの創造活動への支援やコーディネート、また、文化団体相互の連携を促進する中間支援組織「おかやま文化芸術アソシエイツ」の機能の充実、強化を図ります。

○文化団体への活動支援

岡山県文化連盟、岡山県郷土文化財団(公益財団法人岡山県郷土文化財団、以下同じ)等と連携して、県内の文化団体が自らのレベルアップを図るためのノウハウや、国や民間団体の各種助成制度についての情報提供等に努めます。

○アート・マネジメントの推進

文化施設・文化団体の担当者、舞台技術者、学芸員などを対象に、企画制作、広報等資質向上のための研修や交流機会の充実を図ります。

また、地域における文化活動を支えていけるよう、企画、制作、演出などができる人材を育成するとともに、その人材を民間団体、NPO等が有効に活用できるような仕組みを構築します。

○文化サポーターの育成

県内各地で展開される、分野や世代を超えた活発な文化活動を様々な形でサポー

トする人材を育成、活用し、今後の充実した文化活動へと結びつけます。

○芸術家等の創造活動への支援

地元の芸術家等による創造活動を支援するため、市町村や地域住民と協力しながら、おかやま県民文化祭をはじめとした活動の場の充実に努めます。

また、次の世代を担う若手芸術家を育成するため、新進美術家を対象とした岡山県新進美術家育成「I氏賞」を活用するなど本県ゆかりの若手芸術家の発表の場を提供するよう努めます。

(3) 県民の文化創造活動の振興

広く県民が、身近なところで文化についての理解及び関心を高め、質の高い文化を鑑賞するとともに、文化の創造活動に参加できるような環境の整備を進め、優れた地域文化の形成に努めます。

(重点施策)

○文化施設の利用促進・機能強化

県立美術館、県立博物館、天神山文化プラザ、ルネスホール、県立図書館、~~生涯学習センター~~、県立記録資料館などの文化施設の利用促進に努めるとともに、すべての人々に利用しやすく多様なサービスを効率的に提供できる地域の文化の拠点となるよう、学芸員や職員の研修の充実、資料のデジタル化、外国語表記の充実など、様々な手法を活用し文化施設の機能強化を図ります。

また、県民が身近に文化活動を行うことができる場の充実を図るため、学校の空き教室や廃校施設、歴史的建造物、公共空間、商店街の空き店舗等についても、県民や地域の文化関係者の文化活動への幅広い利用を促進します。

○質の高い美術や舞台芸術等の鑑賞機会の提供

広く県民が優れた文化に親しむことができるよう、県立美術館、県立博物館においては、郷土ゆかりの資料の収集に努め、充実した展示を行うとともに、多くの人が文化に気軽に親しみ鑑賞できる企画展を開催します。

また、国や公益法人などが行う支援制度を活用して、県内の文化施設において国内外の質の高い美術や舞台芸術等を鑑賞できる機会の充実を図ります。

さらに、民間団体、NPO等が行う文化の公演等への支援を通じて鑑賞できる機会の充実に努めます。

○文化に関する情報提供の充実

文化の情報拠点機能を持つ天神山文化プラザ等において、各種文化情報の収集に努めるとともに、その情報をメディア等を用いて広く県民に対し発信します。

また、インターネットを活用し県民や文化関係者が文化情報の発信や入手を容易にできるようホームページ「おかやま文化情報」の内容を充実させるとともに、より使いやすいものになるよう努めます。

○おかやま県民文化祭の充実

県民の文化への関心や、県内各地の文化活動の取組を根付かせ、伝統ある地域文化や新たに創造された特色ある文化を県民が身近に感じられる機会を提供するため、県民との協働によるおかやま県民文化祭の充実に努めます。

(4) 障害のある人の文化活動の推進

障害のある人が文化に親しむことは、交流の拡大・生きがい・生活の充実等につながるものです。障害のある人が、文化活動を行うことのできる環境づくりに取り組みます。

また、今まで文化活動を行うきっかけがなかった障害のある人にも、文化に触れる機会を提供するよう取組を進めます。

(重点施策)

○障害のある人の障害者アート等文化活動の推進

障害のある人が、自身の作品展など文化活動を発表する場や、芸術作品等を鑑賞するなど文化に親しむ機会場の充実を図り、障害の有無に関わらず文化に親しめる人とならない人が、障害者アート等文化活動を通して一緒に文化に親しむ環境づくりに努めます。

○文化施設での字幕・音声案内サービスの提供等

博物館、美術館等における文化公演や展示等において、字幕や音声案内サービスの提供等、障害のある人のニーズに応じた工夫・配慮が提供されるように努めます。

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

岡山県には、「岡山後樂園」をはじめ、「吉備津神社」、「旧閑谷学校」などの文化財や「備前焼」、「備前刀」などの伝統工芸、「備中神楽」や「白石踊」などの伝統芸能など全国に誇る豊かな伝統文化があります。

このような穏やかで恵み豊かな自然・風土が、古代吉備^{きびのくに}の国以来、各時代に多彩な文化を育んできた岡山県の歴史を物語る文化遺産を、県民共有の財産として適切に保存し、その中に含まれる先人の知恵を汲み出し、本質を学び、そして次世代に継承するとともに、今に生きる文化として発展させ、積極的な活用を図ります。

(重点施策)

○民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用

地域の祭り、民俗芸能、伝統行事、伝統工芸技術、先人が日常生活の中で伝えてきた知恵などを~~の~~保存・継承を~~す~~図るための、~~これらの保存・継承のための~~調査を推進するとともに、伝統工芸展や民俗芸能の祭典等の発表機会への参加促進や、後継者の育成、保存団体のネットワーク化を推進します。

○「吉備^{きびのくに}国」文化遺産の保存・活用

「吉備^{きびのくに}国」の豊かな文化遺産を体感できるよう、文化遺産の特性や適切な保存に配慮しつつ、積極的な活用を行い、県民が歴史や文化に触れ、親しむ機会を充実します。そのため、県・市町村が連携して、主要な遺跡や建造物等の文化遺産の保存・活用を図ります。

さらに、地域の文化財保護団体との連携によるボランティアの育成・活用など、文化財保護活動の充実を図ります。

○郷土の誇る先人顕彰の推進

様々な分野における郷土の先人の功績をたたえ次世代に伝えていくため、~~岡山県郷土文化財団の協力のもと、犬養木堂記念館や岡崎嘉平太記念館において、先人の功績の記録・顕彰、遺品・資料~~←・作品の収集及び公開を推進します。

○ユネスコ無形文化遺産登録活動の支援

「日本の書道文化」など、後世に伝えていくべき無形文化を、ユネスコ無形文化遺産に登録する活動の支援に努めます。

(2) 文化の力を活用した地域の活性化

地域の風土に根ざし、先人が守り伝えてきた様々な伝統文化や、地域固有の全国に誇りうる文化資源を改めて認識し、民間団体、NPO、大学等と連携しながら、地域で芽吹く新たな創造活動の活性化に努め、文化の力による地域のにぎわいの創出を促進します。

(重点施策)

○地域固有の文化資源の掘り起こし

伝統文化、優れた景観、地域の歴史を素材とした文化活動などは、再評価や有効活用により、地域を特徴づけるシンボルとなります。

このような県内各地に存在する特色ある文化資源を幅広く掘り起こし、ブランド化を図り、地域づくりに生かすとともに、オリンピック・パラリンピックの文化プログラムの素材として活用していきます。

○文化による地域のイメージアップとにぎわい創出

文化を核とした地域づくりを推進するため、地域の文化素材を生かした取組を行っている団体やNPO等を支援します。また、空き店舗や空き家、学校の空き教室や廃校施設等を活用したアーティストや地域の文化関係者などによる文化の拠点づくりの取組を促進するなど、文化による地域のにぎわい創出を図ります。

○国内外のアーティストの地域への受け入れ

地域の作家や住民、NPO、市町村などが主体となり、国内外のアーティストを招へいして、地域資源を活用したアーティスト・イン・レジデンス^{※5}を行い、今まで気づかなかった地域の魅力の再発見に繋げていきます。

○美しく魅力ある景観づくりの推進

地域に残る歴史的な建造物や魅力ある町並み、美しい自然や調和の取れた都市の景観は、人々の情緒・感性を豊かにし、潤いと安らぎを人々に与えます。

このような地域が誇る風景や自然、地域の特色ある生活などの文化資源を活用した美しく魅力ある景観づくりを推進します。

※5 アーティスト・イン・レジデンス：アーティストを招聘し、滞在期間中に作品を制作してもらうこと、また、それらの活動を支援することをいいます。

○歴史・自然を活かした豊かな「暮らし文化」※6の振興

郷土料理や、各地に伝わる祭りなど人々の生活により形作られてきた衣食住に関わる「暮らし文化」は、本県の自然、歴史、伝統に根差した重要な資源であり、未来への継承に努めるとともに、その魅力を国内外へ発信していきます。

○国際的なアートイベントとの連携

国際的なアートイベントは、本県の文化シーンに新たな魅力を付け加え、国内外からの観光客の増加をもたらします。このため、アートイベントとの連携を十分に図るとともに、その効果が、県内に広く波及し、相乗効果が上がるよう取り組みます。

(3) 地域資源としての文化の積極的な活用

地域の文化資源に内在する先人の英知や創造性などを活用して、観光産業・繊維産業をはじめ、文化財等の情報を効果的に発信し、文化を通じて地域の魅力を高めます。

(重点施策)

○繊維産業の振興

伝統に基づくものづくり技術や豊かな感性を活かし、技術開発や人材育成、産地ブランド化を総合的に推進し、生活文化であるファッションに大きく寄与している繊維産業を伝統分野から高度先端分野まで幅広く対応できる産業へ飛躍させる取組を進めます。

○観光産業の振興

伝統文化や産業文化遺産、建築文化遺産などの地域固有の文化資源を掘り起こし、新たな観光資源として積極的に活用することにより、魅力ある観光地づくりに努めます。

また、文化振興と観光振興部門の連携を図ることにより、地域文化の魅力を伝える観光や、観光PRを活用した地域文化の情報発信を促進します。

※6 暮らし文化：瀬戸内海に面した岡山ならではのばら寿司や、備中杜氏の技術に支えられた酒などの食文化、各地に伝わる特色ある伝統行事などをいいます。

○文化財や歴史的建造物の観光振興等への活用

豊かな歴史を象徴する文化財や歴史的建造物などの文化遺産を、その特性や適切な保存に配慮しつつ、広く県民が親しむことができるよう公開・活用します。

また、有形・無形の文化資源を観光・産業振興等に活用するための取組を進めます。

○日本遺産認定の推進

岡山県の歴史的魅力にあふれた文化財や伝統文化をわかりやすくストーリー化した「日本遺産^{※7}」に認定する取組を促進します。

また、その魅力を県内外に発信していくことにより、地域の活性化を図ります。

3 文化発信しながら交流を広げる愛着心と誇りを持てる岡山

(1) 多様な文化プログラムの展開

オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもあります。国内外に岡山の文化の魅力を発信するとともに、その魅力を再認識し、さらに発展させる契機となるよう文化プログラムへの参画を促進します。

(重点施策)

○オリンピック・パラリンピックに向けた多様な文化プログラムの展開

東京オリンピック・パラリンピックに向けて、多様な文化プログラムの展開を促進します。様々な主体が連携・参加・交流し、岡山の魅力を国内外に発信していきます。

○次世代へ継承されるレガシーの実現

文化プログラムの実施を通じて、東京オリンピック・パラリンピック後にも継承されるレガシーを以下の4つのコンセプトを基に実現していきます。

- ・岡山における文化の再認識と継承・発展
- ・次世代育成と新たな文化の創造
- ・岡山における文化の世界への発信と国際交流
- ・あらゆる人の参加・交流と地域の活性化

※7 日本遺産：文化・伝統を語るストーリーを文化庁が「日本遺産」として認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を総合的かつ一体として活用し、地域活性化を図ることを目的としています。

(2) 文化による連携・交流の促進

文化の交流を通じ、地域の文化活動の活発化や人々の相互理解を深めるため、県内各地の特色ある文化、伝統行事など地域の文化資源を活用した地域間交流や、世界の様々な地域の人々との交流を促進します。

(重点施策)

○文化ネットワークの形成

様々な分野の芸術家や、文化団体、NPO、ボランティアなどの文化に関わる人々が活動できる環境をサポートするため、研修機会の充実を図るとともに、情報交換や交流を通じて文化活動の運営や企画を支える人材のネットワークづくりを推進します。

また、創造都市ネットワーク^{※8}など全国的な団体とのつながりを活用し、先進事例の情報収集や、情報共有を行います。

○国内文化交流の促進

世代や分野を超えた文化団体や人々の交流の広がりを通じて、県内外の文化交流や全国大会への参加を促進するとともに、文化関係の全国大会や中四国大会などの誘致を推進します。

○国際文化交流の促進

文化施設における外国語表記を充実させ、県内在住の外国人や外国人旅行者が本県の文化に親しみやすい環境づくりを推進します。

また、文化団体、NPOなどが行う海外の芸術家によるアーティスト・イン・レジデンスの取組を支援します。

(3) 岡山からの文化発信

国内外における岡山の認知度を高めるため、メディア等の効果的な活用や人的交流を通じて、伝統文化から現代文化まで、多様な文化の魅力の国内外へ向けた積極的な発信を推進します。

(重点施策)

○文化情報のデジタル化、データベース化による情報発信

※8 創造都市ネットワーク：文化の創造性を生かした発展や再生の取組を目指す自治体や団体のネットワークをいいます。

美術品や文化財など様々な文化に関する情報について、デジタル技術を活用したアーカイブ化による記録・保存に取り組むとともに、インターネット等を活用した情報発信を推進します。

○ソーシャルメディア等の活用による魅力発信

文化情報を集約するポータルサイトや、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などを効果的に活用し、本県の文化資源や文化プログラムなどを積極的に国内外に情報発信します。

○おかやま独自の文化発信

本県の文化を積極的に発信する取組を通じ、県民に本県の魅力を再認識してもらうとともに、他県に在住している本県出身者の郷土愛を高め、岡山の文化の素晴らしさを共有できるよう努めます。

また、国内外における岡山の認知度を高め、県民が岡山の文化に愛着心と誇りが持てるような岡山ならではの文化発信に努めます。

VI 文化振興のための体制づくり

1 文化行政推進体制の充実

文化の分野の広がりや文化振興の多様化を踏まえ、県の各部局の緊密な連携・協力により、文化の総合的なコーディネーターとしての役割を担えるよう、総合的な文化振興を推進するとともに、文化活動の調査・分析などの支援に努めます。

また、岡山県郷土文化財団や岡山県文化連盟をはじめ、芸術家・文化団体・NPO・企業・大学・市町村など本県の文化を担う多様な主体との連携を一層強化していきます。

さらに、東京オリンピック・パラリンピックに向け文化プログラムを展開し、そのレガシーを創出していくため、岡山県文化連盟内に設置している中間支援組織「おかやま文化芸術アソシエイツ」の充実、強化に取り組みます。

2 政策形成への民意の反映等

文化行政を推進する上で、県民の多様なニーズを把握することが重要であることから、文化の振興に関する施策形成や事業実施に際して、文化振興審議会の意見聴取、有識者等の積極的活用による県民の多様な意見の反映に努めます。

また、県全体の事業について選択と集中を図る中、文化振興の施策についても適切な評価を行い、支援の重点化と効率化を図る必要があることから、文化振興審議会の意見も聴きながら事業効果の把握に努め、各施策を評価し、事業実施に反映します。

おかやま文化振興ビジョン(2018～2027)成果指標(案)

1 文化を創造し心豊かに生活できる岡山

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H39(2027)年度	備 考
文化施設利用者数	483,612人	530,000人	
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数			

(1)将来の地域文化の担い手育成

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34(2022)年度	備 考
おかやまの文化財キッズページ年間アクセス数	854件 (2016年度)	1,800件 (2020年度)	【新規】 第2次岡山県教育振興基本計画
(説明)おかやまの文化財キッズページ年間アクセス数			
学校行事で県立美術館を訪れた人数	3,661人	3,700人	
(説明)授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数			
子どもみらい塾講師派遣回数	406人	450回	
(説明)岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数			
優れた芸術を鑑賞した学校数	668校	1,300校	2012年からの累計
(説明)県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累積数			
アウトリーチ活動実施回数	39回	43回	
(説明)県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数			

(2)県民参加による新たな文化の創造

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34(2022)年度	備 考
おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数	—	400件	【新規】 目標値は累計
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数の累積数			
文化関係各種助成金の採択件数	31件	40件	
(説明)文化庁、日本芸術文化振興会、地域創造等の団体が募集した助成金事業に採択された件数			

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34(2022)年度	備考
県が実施するアートマネジメント講座修了者数	69名	200人	【新規】 2014年からの累計
(説明)県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累積数			
県立美術館ボランティア数	89人	100人	
(説明)県立美術館に登録しているボランティア数			
岡山県美術展覧会への応募点数	3,296点	3,300点	
(説明)岡山県美術展覧会へ一般応募された作品(日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻)の点数			

(3) 県民の文化創造活動の振興

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34(2022)年度	備考
文化施設利用者数	483,612人	506,000人	
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数			
「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じる人の割合	30.2% (2016年度)	38.0% (2020年度)	生き活きプラン指標
(説明)県民満足度調査「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっていると感じる」人の割合			
「岡山文化情報」ホームページアクセス数	25,697件	29,000件	
(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数			
県民文化祭参加者数	370,978人	408,000人	
(説明)おかやま県民文化祭への総参加者数			

(4) 障害のある人の文化活動の推進

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34(2022)年度	備考
障害のある人のアート展への応募点数	—	250点	【新規】
(説明)岡山県主催の障害者アート展への応募点数			
beyond2020プログラムのうち障害のある人にとってのバリアを取り除く取組を含むプログラムの認定件数	—	1,100件 (2020年度)	【新規】 目標値は累計
(説明)岡山県が認定するbeyond2020プログラムのうち障害のある人にとってのバリアを取り除く取組みを含むプログラムの認定件数の累積数			

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H39(2027)年度	備 考
地域の特色や魅力を生かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数	69人	500人	2014年からの累計
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツが実施するアートマネジメント研修受講者数と県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累積数			

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34(2022)年度	備 考
日本伝統工芸展への応募点数	116点	120点	
(説明)日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数			
登録文化財の登録件数	275件	310件	
(説明)登録文化財の登録件数			
犬養木堂記念館及び岡崎嘉平太記念館利用者数	25,772件	29,000人	【新規】
(説明)犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館の利用者数			

(2) 文化の力を活用した地域の活性化

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34(2022)年度	備 考
オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム件数	—	2,000件 (2020年度)	【新規】 生き活きプラン指標
(説明)東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国、県等が認定する文化イベントの件数			
県民文化祭地域フェスティバル実行委員会への参加団体数	118団体	130団体	
(説明)おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)の実行委員会に参加した団体数			
県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業参加アーティスト数	20人	25人	【新規】
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業への参加アーティスト数			
地域の景観づくりに主体的に取り組む景観行政団体(市町村)数	8団体	10団体	
(説明)景観計画の策定等、地域独自の景観形成施策を実施する景観行政団体(市町村)数			
外国人旅行者宿泊者数	133,100人	300,000人 (2020年度)	【新規】 生き活きプラン指標
(説明)県が調査している外国人旅行者宿泊者数			

(3) 地域資源としての文化の積極的な活用

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34(2022)年度	備考
観光入込客数	1,433万人	1,500万人 (2020年)	生き生きプラン指標
(説明)観光庁「観光入込客統計」(暦年調査)による観光入込客数			
後楽園の入園者数	744,039人	900,000人 (2020年度)	生き生きプラン指標
(説明)後楽園の入園者数			

3 文化を発信しながら交流を広げる岡山

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H39(2027)年度	備考
文化施設ホームページアクセス件数	360,035件 (2016年度)	432,000件	
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館のホームページ			

(1) 多様な文化プログラムの展開

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34(2022)年度	備考
オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム件数【再掲】	—	2,000件 (2020年度)	【新規】 生き生きプラン指標
(説明)東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国、県等が認定する文化イベントの件数			
オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム件数【再掲】	—	2,000件 (2020年度)	【新規】 生き生きプラン指標
(説明)東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国、県等が認定する文化イベントの件数			

(2) 文化による連携・交流の促進

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34(2022)年度	備考
文化に関わる人々のネットワークづくりのためのワークショップ等受講者数	—	1,500人	【新規】 目標値は累計
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツが実施する文化に関わる人々のネットワークづくりのためのレクチャー・ワークショップ受講者数			
国民文化祭への派遣団体数	8団体	10団体	
(説明)国民文化祭への派遣団体数			

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34(2022)年度	備考
県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業参加外国人アーティスト数	5人	7人	【新規】
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業への参加外国人アーティスト数			

(3)岡山からの文化発信

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34(2022)年度	備考
「岡山文化情報」ホームページアクセス数【再掲】	25,697件	29,000件	
(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数			
県立美術館フェイスブック“いいね”の数	—	1,900件	【新規】 目標値は累計
(説明)県立美術館フェイスブック“いいね”の数の累計			
「岡山文化情報」ホームページアクセス数【再掲】	25,697件	35,000件	
(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数			

※累積数を指標としている場合、現況値はH28現在の累積数を記載している。

文化振興ビジョン成果指標設定の考え方

■基本方針ごとに、2027年度の目標を1件設定する。

- 1 文化を創造し心豊かに生活できる岡山
文化施設利用者数 530,000人
- 2 文化が地域の元気を生み出す岡山
地域の特色や魅力を生かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数 500人
※アソシエイツが実施するアートマネジメント研修受講者数
県が実施するアートマネジメント人材育成講座修了者数の合計
- 3 文化を発信しながら交流を広げるおかやま
文化施設ホームページアクセス件数 432,000件

■重点施策ごとに、2018年度から2022年度の5年間の目標として、原則1指標を設定する。

※生き生きプランをはじめ、各分野の個別の計画に既に位置付けられている数値もあるため、目標年度については、指標の性格に応じ3年から5年の間で設定する。また、指標設定が困難な施策については、設定しない。(38施策のうち4施策)

○31指標(うち再掲2)⇒34指標(うち再掲4)

※34指標内訳:新規14(うち再掲2)、継続20(うち再掲2)

■重点施策に係る指標の設定は概ね下記の基準とする。

○新規に採用する指標 14指標(うち再掲2)

- ・おかやまの文化財キッズホームページ年間アクセス件数
- ・おかやま文化芸術アソシエイツ相談件数
- ・オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム件数
- ・beyond2020プログラムのうち障害のある人にとってのバリアを取り除く取組を含むプログラムの認定件数 等

○現ビジョンから継続する指標 20指標(うち再掲2)

1 過去5年(2012~2016)平均を基準に、係数を乗じて設定

- 一般(係数:1.1) 9指標(うち再掲2)
 - ・あっ晴れ!子ども未来塾講師派遣回数
 - ・アウトリーチ活動実施回数 等
- 施策の効果がより期待できるもの(係数:1.3) 1指標
 - ・文化関係各種助成金の採択件数(アソシエイツを活用)
- 遞減傾向にあり現状維持が目標となるもの(1.0) 4指標
 - ・学校行事で県立美術館を訪れた人数
 - ・岡山県美術展覧会への応募点数 等
- その他 6指標
 - ・文化施設利用者数(複数施設の数値を合計)
 - ・登録文化財の登録件数(文化財課目標値)
 - ・後樂園入園者数(生き生きプラン指標) 等

※生き生きプランの生き生き指標として採用されている指標は、当面2020年度を目標年度とし、次期生き生きプラン策定後改定する。

- ・オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム件数
- ・後樂園への入園者数 等

おかやま文化振興ビジョン(2018~2027)成果指標(案)

1 文化を創造し心豊かに生活できる岡山

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H39 (2027)年度	設定の考え方
文化施設利用者数	483,612人	530,000人	過去5年間平均×1.2 (指定管理者制度導入の天 プラとルネスは過去5年の平 均値)
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数			

(1) 将来の地域文化の担い手育成

重点施策	指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34(2022) 年度	設定の考え方
郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実	【新規】おかやまの文化財キッズページ年間アクセス数	854件 (2016年度)	1,800件 (2020年度)	第2次岡山県教育振興基本計画
(説明)おかやまの文化財キッズページ年間アクセス数				
学校教育における文化活動の充実	学校行事で県立美術館を訪れた人数	3,661人	3,700人	現状維持を目指す
(説明)授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数				
子どもや若者の文化活動の充実	子どもみらい塾講師派遣回数	406人	450回	過去5年平均×1.1
(説明)岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数				
教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実	優れた芸術を鑑賞した学校数	668校	1,300校	現行ペースを維持 2012年からの累計
(説明)県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累積数				
芸術系専門学科を有する高校や大学との連携	アウトリーチ活動実施回数	39回	43回	過去5年間平均×1.1
(説明)県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数				

(2) 県民参加による新たな文化の創造

重点施策	指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34 (2022)年度	設定の考え方
岡山県文化連盟の機能強化	【新規】おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数	—	400件	年間80件×5年
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数の累積数				
文化団体への活動支援	文化関係各種助成金の採択件数	31件	40件	過去5年平均×1.3 (アソシエイツ等を活用)
(説明)文化庁、日本芸術文化振興会、地域創造等の団体が募集した助成金事業に採択された件数				

重点施策	指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34 (2022)年度	設定の考え方
アートマネジメントの推進	【新規】県が実施するアートマネジメント講座修了者数 (説明)県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累積数	69名	200人	過去3年平均×1.1の累積 2014年からの累計
文化サポーターの育成	県立美術館ボランティア数 (説明)県立美術館に登録しているボランティア数	89人	100人	過去5年間平均×1.1
芸術家等の創造活動への支援	岡山県美術展覧会への応募点数 (説明)岡山県美術展覧会へ一般応募された作品(日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻)の点数	3,296点	3,300点	現状維持を目指す

(3) 県民の文化創造活動の振興

重点施策	指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34 (2022)年度	設定の考え方
文化施設の利用促進・機能強化	文化施設利用者数 (説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数	483,612人	506,000人	過去5年間平均×1.1 (指定管理者制度導入の天プラとルネスは過去5年の平均値)
質の高い美術や舞台芸術等の鑑賞機会の提供	「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じる人の割合 (説明)県民満足度調査「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じる人の割合	30.2% (2016年度)	38.0% (2020年度)	生き生きプラン指標
文化に関する情報提供の充実	「岡山文化情報」ホームページアクセス数 (説明)県内の文化施設や文化イベントを紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数	25,697件	29,000件	過去5年間平均×1.1
おかやま県民文化祭の充実	県民文化祭参加者数 (説明)おかやま県民文化祭への総参加者数	370,978人	408,000人	過去5年平均×1.1

(4) 障害のある人の文化活動の推進

重点施策	指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34 (2022)年度	設定の考え方
障害のある人の文化活動の推進	【新規】障害のある人のアート展への応募点数 (説明)岡山県主催の障害者アート展への応募点数	—	250点	障害者福祉課目標値

重点施策	指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34 (2022)年度	設定の考え方
文化施設での字幕・音声案内サービスの提供等	【新規】beyond2020プログラムのうち障害のある人にとってのバリアを取り除く取組を含むプログラムの認定件数 (説明)岡山県が認定するbeyond2020プログラムのうち障害のある人にとってのバリアを取り除く取組を含むプログラムの認定件数の累積数	—	1,100件 (2020年度)	文化プログラム数(2,000件)×0.7(beyond2020文化プログラム推定数)×0.8 目標値は累計

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H39 (2027)年度	設定の考え方
地域の特色や魅力を生かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数	69人	500人	文化振興課目標値 アソシエイツ分20人/年、 県分25人/年 2014年からの累計
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツが実施するアートマネジメント研修受講者数と県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累積数			

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

重点施策	指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34 (2022)年度	設定の考え方
民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用	日本伝統工芸展への応募点数 (説明)日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数	116点	120点	現状維持を目指す
「吉備国」文化遺産の保存・活用	登録文化財の登録件数 (説明)登録文化財の登録件数	275件	310件	文化財課目標値
郷土の誇る先人顕彰の推進	【新規】犬養木堂記念館及び岡崎嘉平太記念館利用者数 (説明)犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館の利用者数	25,772件	29,000人	過去5年平均×1.1
ユネスコ無形文化遺産登録活動の支援	—			

(2) 文化の力を活用した地域の活性化

重点施策	指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34 (2022)年度	設定の考え方
地域固有の文化資源の掘り起こし	【新規】オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム件数 (説明)東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国、県等が認定する文化イベントの件数	—	2000件 (2020年度)	生き生きプラン指標

重点施策	指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34 (2022)年度	設定の考え方
文化による地域のイメージアップとにぎわい創出	県民文化祭地域フェスティバル実行委員会への参加団体数	118団体	130団体	過去5年平均×1.1
(説明)おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)の実行委員会に参加した団体数				
国内外のアーティストの地域への受け入れ	【新規】県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業参加アーティスト数	20人	25人	文化振興課目標値
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業(H25～)への参加アーティスト数				
美しく魅力ある景観づくりの推進	地域の景観づくりに主体的に取り組む景観行政団体(市町村)数	8団体	10団体	環境企画課目標値
(説明)景観計画の策定等、地域独自の景観形成施策を実施する景観行政団体(市町村)数				
歴史・自然を活かした豊かな「くらし文化」の振興	—			
国際的なアートイベントとの連携	【新規】外国人旅行者宿泊者数	133,100人	300,000人 (2020年度)	生き生きプラン指標
(説明)県が調査している外国人旅行者宿泊者数				

(3) 地域資源としての文化の積極的な活用

重点施策	指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34 (2022)年度	設定の考え方
繊維産業の振興	—			
観光産業の振興	観光入込客数	1,433万人	1,500万人 (2020年)	生き生きプラン指標
(説明)観光庁「観光入込客統計」(暦年調査)による観光入込客数				
文化財や歴史的建造物の観光振興等への活用	後楽園の入園者数	744,039人	900,000人 (2020年度)	生き生きプラン指標
(説明)後楽園の入園者数				
日本遺産認定の推進	—			

3 文化を発信しながら交流を広げる岡山

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H39 (2027)年度	設定の考え方
文化施設ホームページアクセス件数	360,035件 (2016年度)	432,000件	2016年度実績値×1.2
<small>(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館のホームページアクセス件数</small>			

(1) 多様な文化プログラムの展開

重点施策	指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34 (2022)年度	設定の考え方
オリンピック・パラリンピックに向けた多様な文化プログラムの展開	【新規】オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム件数【再掲】 <small>(説明)東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国、県等が認定する文化イベントの件数</small>	—	2,000件 (2020年度)	生き活きプラン指標
次世代へ継承されるレガシーの実現	【新規】オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム件数【再掲】 <small>(説明)東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国、県等が認定する文化イベントの件数</small>	—	2,000件 (2020年度)	生き活きプラン指標

(2) 文化による連携・交流の促進

重点施策	指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34 (2022)年度	設定の考え方
文化ネットワークの形成	文化に関わる人々のネットワークづくりのためのワークショップ等受講者数 <small>(説明)おかやま文化芸術アソシエイツが実施する文化に関わる人々のネットワークづくりのためのレクチャー・ワークショップ受講者数</small>	—	1,500人	25人/年×12回×5年 目標値は累計
国内文化交流の促進	国民文化祭への派遣団体数 <small>(説明)国民文化祭への派遣団体数</small>	8団体	10団体	過去4年平均×1.1
国際文化交流の促進	【新規】県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業参加外国人アーティスト数 <small>(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業(H25～)への参加外国人アーティスト数</small>	5人	7人	文化振興課目標値

(3)岡山からの文化発信

重点施策	指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34 (2022)年度	設定の考え方
文化情報のデジタル化、データベース化による情報発信	「岡山文化情報」ホームページアクセス数【再掲】 <small>(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数</small>	25,697件	29,000件	過去5年間平均×1.1
ソーシャルメディア等の活用による魅力発信	【新規】県立美術館フェイスブック“いいね”の数 <small>(説明)県立美術館フェイスブック“いいね”の数の累計</small>	—	1,900件	平均年推計値340件×5年×1.1 目標値は累計
おかやま独自の文化発信	「岡山文化情報」ホームページアクセス数【再掲】 <small>(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数</small>	25,697件	29,000件	過去5年間平均×1.1

※累積数を指標としている場合、現況値はH28現在の累積数を記載している。

おokayama文化振興ビジョン(2018～2027)(仮称)

策定スケジュール

- ◆平成29年10月31日(火)
文化振興審議会
おokayama文化振興ビジョン(2018～2027)(仮称)案の協議
- ◆平成29年11月中旬～12月中旬
パブリックコメントの実施 意見を公募
- ◆平成30年1月
パブリックコメントの結果公表
寄せられた意見と県の考え方を公表
- ◆平成30年1月31日(水)
文化振興審議会
おokayama文化振興ビジョン(2018～2027)(仮称)の答申
- ◆平成30年2月～3月
おokayama文化振興ビジョン(2018～2027)(仮称)を決定
公表・周知を図ります。